

栗駒山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会
第3回委員会 議事概要

1 日時 2022年8月4日(木) 13:30~16:00

2 場所 岩手県水産会館ホール5階大会議室

3 参集者 別添出席者名簿のとおり

4 次第

- (1) 開会
- (2) 開会挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長挨拶
- (5) 議事
 - 1) 第2回検討委員会の指摘事項と対応
 - 2) 緊急減災対策実行計画(案)
 - 3) 平常時からの準備事項
- (6) 閉会

5. 議事概要

(1) 委員会の成立

本日は委員26名中21名が出席しており、規約第5条に基づき委員会が成立することを報告。

(2) 第2回検討委員会の指摘事項と対応

資料により事務局から説明。

(質疑応答)

- ・ 監視カメラは工事の安全確保を目的に設置箇所を検討しているが、火口の監視は本計画の目的に含まれないのか。現状、昭和湖付近を望むカメラが気象庁により設置されているが、商用電源がなく冬季は欠測が多いので、重要な山体北側の監視が長年の課題となっている。

→ 事務局:緊急減災対策砂防計画策定ガイドラインによると、カメラの設置目的は工事従事者の安全確保となっているので、減災計画としてはこのような提案になる。

- ・ 土石流検知センサーの配置方針が、土石流の発生を検知してから作業員が退避できる位置に設置することとなっているが、退避距離や流速等の検討条件はどのように設定しているのか。避難を開始するために作業員の避難訓練を平常時からしておくことが重要と思う。

→ 事務局：各施工予定地において溪流の流心から氾濫範囲の外に退避する距離を設定している。さらに警報を聞いてから退避行動に移すまでの時間を 30 秒として土石流の流速を考慮してセンサー設置箇所を決めている。

- ・ 気象庁による解析積雪深の提供はいつから始まったのか、また解析精度はどの程度あるのか。

→ 盛岡地方气象台：解析積雪深は令和元年 11 月から提供を開始した。精度に関しては地域の特性によって変わってくるので一概に回答できない。

- ・ 緊急ハード対策工法選定フロー(案)において、除石工と嵩上げが挙げられているが、除石をしながら嵩上げをするパターンを考えても良いのではないか。

→ 事務局：フローにおいて、除石で 100%の整備効果を得られない場合は次に嵩上げを検討する流れとしている。

- ・ 解析積雪深はどのように算出されているのか。

→ 盛岡地方气象台：レーダー雨量等による降水量から積雪量、積雪深を推定するモデルである。なお、降雪量は毎時で求めるのではなく、積雪深の差を降雪量としている。

(3) 緊急減災対策実行計画(案)

- ・ 融雪型火山泥流の氾濫ポイント図で河道の中を流下している流れと氾濫の流れが分かりにくいので、表現を工夫した方が良い。

→ 事務局：修正する。

- ・ 融雪型火山泥流の対策に 19 日を想定しているが、噴火と同時に発生する現象に対して間に合うのか疑問がある。

→ 事務局：ご指摘のとおり融雪型火山泥流は噴火前に行う必要がある。そのためには、対策開始タイミングのところで提案したようにできる限り早く噴火の兆候を掴んで、それを判断する仕組みが重要と考えている。

- ・ 対策期間を短縮するためには、必要資材の備蓄も重要である。

- ・ 治山堰堤等を嵩上げする計画があるが、満砂している堆砂域を基礎にできる施設を選んでいるという認識でよいか。

→ 事務局：対象施設が満砂しており、アクセスも可能なことを現地で確認した上で計画している。

- ・ 嵩上げが可能となる条件等を図面にコメントしておく方が良い。また、アクセス路について、現状で車両が入れる区間と工事前に整備が必要な区間を図面に分かるようにしておくのが良い。

(4) 平常時からの準備事項

- ・ ブロックの備蓄事例が紹介されているが、特に浅間山と富士山について備蓄量の考え方が分かるか。

→ 事務局：調べて次回報告する。

- ・ 岩手山では噴火災害を対象にした防災教育が実施されているが、栗駒山噴火を対象とした防災教育は県の方でやられていないのか。

→ 事務局：把握している限りはない。

- ・ 対策開始のタイミング事例について、文献での整理以降の噴火(2011年新燃岳や2014年御嶽山など)についても整理する方が良い。

→ 事務局：了解した。

- ・ UAVによる緊急調査に関しては、毎年新しい研究発表が行われているので、栗駒山における具体的な使用方法等について記載できると良い。

→ 事務局：了解した。

以 上